

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2372500633
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン
事業所名	グループホーム グレイスフル八田
訪問調査日	平成20年12月15日
評価確定日	平成21年1月25日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2372500633
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン
事業所名	グループホーム グレイスフル八田
所在地	春日井市八田町2-27-10 (電話) 0568-85-5331

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年12月15日	評価確定日	平成21年1月25日

## 【情報提供票より】(平成20年11月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	11年4月5日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,500 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要(平成20年11月13日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	0名	要介護2	2名			
要介護3	4名	要介護4	3名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	86.4歳	最低	83歳	最高	92歳
協力医療機関名	春日井市民病院・勝川医院・あさひが丘ホスピタル					

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

春日井市役所北西部春日井警察署のすぐ裏手にグレイスフル八田は建っている。一帯は広大な土地に建つ旧家と新築マンションが混在する地域である。経営母体はショートステイ、デイサービスなど多様な介護施設を十数箇所経営する社会福祉法人であり、研修も法人内部で実施しており、各種資格の受験対策、教材なども準備されている。また、職員の資格取得も教育、資金両面から支援体制が整っている。ホームには「つぶやきノート」があり、日常の入居者の些細な言葉を職員が自由に書き込み、介護計画見直しに役立っている。また、見学者や研修生を対象にした、認知症についての分かりやすい説明書をホーム独自で作成している。認知症の具体例と対応方法とが記載され、「利用者様からのお願い」として、認知症への理解の啓発、浸透に努めている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回ホーム独自の地域密着型サービスを盛り込んだ理念への取組が期待されたが、管理者の変更があり、新管理者も着任して日が浅く改善への取り組みもそれとともに途切れてしまい、今日に至っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の目的、効用を詳細に説明した文書が運営推進委員会で配布され家族等参加者に周知が図られている。職員は「日常の介護に追われて見落とししている点を改めて気づかされ自己の見直しにつながっている」と感じている。他の職員は自己評価を通じ自分の足りない点、できていない点を教えられたと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族、一般職員、市の介護職員、施設長、管理者、ケアマネジャーをメンバーとし隔月で開催されている。地域代表にも積極的に参加してもらうことを当面の目標としている。以前は家族の参加も少なかったが、今回休日開催にし、積極的に呼びかけ出席を促していく。家族からも議題にかかわらず素朴な質問が出されホームからは丁寧に説明がされている。この評価結果も運営推進委員会で公表することになっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進委員会では、重度化した場合などの深刻な不安も率直に出されホームからは不安を取り除くよう丁寧に説明がされている。家族会は年4回開催され異動による不安に対し、職員を担当制とすることで自覚を促し、異動を減らす工夫を発表し納得してもらった。ほとんどの家族が運営推進委員会や家族会に出席し直接要望を伝えてくれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し清掃等地域行事、市のイベント「春日井祭り」なども積極的に参加し、近所からは野菜の差し入れやホーム前面の花壇の手入れなどに協力してもらっている。月に1度は喫茶店でモーニングを楽しんだり、食材は毎日近所のスーパーへ入居者と一緒に出かけている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の中には「地域とともに少子高齢化を考え、安全なまちづくりに貢献します」と職員の地域における心構えが説かれている。理念は玄関、スタッフルームに掲示され各職員にも配布されている。職員トイレにはケアのプロ・従業員としての心構えが掲示され自然に目に入るように工夫されている。		入居者にとってホームは自宅であり、そのホームを中心に入居者がどう地域に溶け込み、地域の一員として法人理念に沿い自信と幸福を感じられるための方策及び入居者の持てる力を地域に還元するための指針として、また、職員全員の理想を実現する指針としてホーム独自の理念づくりに取り組まれない。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、スタッフルームに掲示され、各職員にも配布されている。また、毎朝出勤者により唱和もしている。管理者は入居者には十人十色の性格、好みがあり一人ひとりに寄り添ってその人らしい生活をしてもらうことが理念の具体化だと考えている。職員は地域交流が大切と考え、ホームのイベントに地域の人を招待したいと実現化を望んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し清掃等地域行事、市のイベント「春日井祭り」なども積極的に参加し、近所からは野菜の差し入れやホーム前面の花壇の手入れなどに協力してもらっている。月に1度は喫茶店でモーニングを楽しんだり、食材は毎日近所のスーパーへ入居者と一緒に行き買いに出かけている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の目的、効用を詳細に説明した文書が運営推進委員会で配布され家族などの参加者に周知が図られている。職員は「日常の介護に追われて見落とししている点を改めて気づかされ自己の見直しにつながっている」と感じている。他の職員は自己評価を通じ自分の足りない点、できていない点を教えられたと感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族、一般職員、市の介護職員、施設長、管理者、ケアマネジャーをメンバーとし隔月で開催されている。地域代表にも積極的に参加してもらうことを当面の目標としている。以前は家族の参加も少なかったが、今回休日開催にし、積極的に呼びかけ出席を促していく。家族からも議題にかかわらず素朴な質問が出されホームからは丁寧に説明がされている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護担当者が運営推進委員会に参加し行政面で家族からの質問にも答えてくれる。事故の報告、管理者の変更届はもとより、ホームの「八田だより」を届けることを検討している。書類等について不明な事項は直接介護担当者に電話で確認している。こども110番も積極的に引き受け市開催の介護の実践者講習も職員が参加している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回「八田だより」を発行し家族来訪時には直接、来られなかった家族には郵送している。全職員が家族と顔なじみになれるよう来訪時には職員から積極的に話しかけている。毎月1回担当者、施設長が預かり金を二重にチェックし家族の来訪時には家族に承認を受けている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進委員会では、重度化した場合などの深刻な不安も率直に出され、ホームからは不安を取り除くよう丁寧に説明がされている。家族会は年4回開催され異動による不安に対し、職員を担当制とすることで自覚を促し、異動を減らす工夫を発表し納得してもらった。ほとんどの家族が運営推進委員会や家族会に出席し直接要望を伝えてくれる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の介護施設は多種かつその数も多いが、グループホームに関しては異動はなく、職員が欠けた場合に他の施設から補充がされる。新職員は八田だよりで写真付きで紹介している。退職の場合、入居者への配慮から退職後に報告するようにしているが、退職日には花束贈呈があったり当人の挨拶があったり、入居者の目に触れてしまうこともある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人が研修の年間計画を立て月に1回は何らかの研修に職員が参加している。日勤帯であれば勤務時間内に参加できるよう配慮されている。法人自体で資格取得の対策、教材も作成されており、資格取得に対して受講費用の大半が法人から支給され、各種資格手当も用意されている。個々のレベルに合わせての研修はホームで立案し、勉強会を行っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>春日井市内の介護事業者連絡会、県のグループホーム連絡協議会に参加している。その他に法人内の数箇所のグループホーム報告会があり、情報交換や勉強会に積極的に参加している。入居者が女性ばかりなので男性が入居した場合の不安払拭のためアドバイスを受けていたりしている。認知症の勉強のため施設の訪問をしている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>各入居者の個性に対応した介護を目指しその来歴、生活、趣味、嗜好等細かに事前調査され、まずは昼間遊びに来てもらい馴れてもらっている。本人も家族も納得できるまで何度も通ってもらい、その間に現在の入居者との相性、他害の恐れなど観察し施設長、法人の申し込みセンター、ケアマネジャー、ホーム職員が参加して入居検討会が開かれる。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>管理者は入居者を人生の先輩として生活全般にわたり教えてもらい個々でできないことはお互い助け合い支え合っていると感じている。トイレの標識、季節の壁飾り等も入居者が手作りしている。入居者は職員をよく観察しており、「疲れた？」と気遣ったり夜勤明けで帰る時には「おやすみなさい」とねぎらったりしてくれ、職員の明日への活力になっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ホーム独自に「つぶやきノート」を作っており、入居者の何気ない一言を細大漏らさず毎日記録し、1週間、1月単位で見直すことで口に出さない本人の希望を発見し、月1回のカンファレンス、ミーティングで検討している。遠方に住む娘を思い出し淋しがる入居者には手紙を書くことを提案し、心穏やかに過ごしてもらう工夫をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は職員、ケアマネージャー、管理者が参加する毎月のカンファレンスで1人ずつについて検討し、話し合いを基に計画作成担当者が作成する。担当職員は日ごとの入居者の様子や自分の気づきなど活発に意見を出して計画に反映させ、ミーティングや申し送りで共有している。家族にも参加を呼びかけ、入居者や家族の願いをくみ上げようとしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>短期の目標を1カ月、長期の目標を6カ月として、見直しは毎月のカンファレンスとミーティングの中で決められた人について検討し、継続、または新しい計画につなげているが、体調変化などあった場合は必要に応じてすぐに見直しを行う。変化がない時でも6カ月毎に見直している。毎日の申し送りでその情報を共有している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>法人内に特別養護老人ホーム、老人保健施設、福祉用具等の各種事業所があり、連携して支援している。(例：重度化した場合の支援、福祉用具のレンタル支援など)。また、夜間緊急時、施設の看護師の指導や指示連携、太極拳や幼稚園児との交流などボランティアコーディネーターによる支援がある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居後、毎月1回協力医による往診がある他、認知症専門医の往診を受けることができるが、体調急変時は必要に応じて往診してもらえる体制がある。協力医や専門医、看護師には何かあると連絡しアドバイスを受ける。かかりつけ医希望受診は家族と協力して支援している。その際、検査結果などのデータはホームでも管理している。薬剤情報も薬手帳と共に管理している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームでは終末ケアは行なわない方針であるが、医療行為が必要になった時は医療に委ねることも含め、法人内施設と連携して、状況に応じたサービスが受けられるように支援している。早い段階から家族や主治医と話し合いを行なっている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーマークを取得し個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。パソコンに入力されて法人で管理されている記録もある。また、入浴時には羞恥心に配慮した介助や自尊心や誇りを傷つけないように態度や言葉遣いにも十分注意している。全職員が勉強会へ参加できるようにと考えている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝のごみ出しや食材の買い出しなど、いろいろな役目に数人ずつ割り振り、交替で全員が参加できるように配慮している。夏場は毎日のように散歩している。隔年で1泊旅行と日帰り旅行を実施し、初詣など季節の行事も大切にしている。映画を見たいという要望に応え、法人のシアタールームで鑑賞した。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に行って好きなものを選んだり、相談しながら準備段階から、盛り付け、配膳、片付けまで入居者と職員が一緒になって食事作りをしている。暦を活用して「鍋の日」や「フルーツの日」として季節の野菜や果物で季節感を感じられるよう工夫している。また、誕生日やイベントの時には入居者の好きな赤飯やちらし寿司など希望料理を取り入れて楽しんでいいる。また、お弁当を持って外出する時もある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴でき、午後の時間帯で一人ひとり好きな時間に入浴している。仲のよい人が二人で入ることもある。職員は転倒など危険がないように見守りをする。熱があったり、体調不良などで入浴できない時は着替えや清拭で清潔を保つようにしている。また、羞恥心に配慮して扉は必ず閉める。近所の人から頂いた柚子湯や菖蒲湯で季節感を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗洗いは難しいがすすぎはできる人、軽いゴミ出しならできる人、靴下を揃えてくれる人、日めくりを毎日めくる人など本人の能力に応じて家事を職員と一緒にこなしている。こども110番を受託し登校時のこども達の見送りもしている。毎日の散歩で好きな犬と接したり近所の花を眺めたり、月に1度はモーニングや昼食にも出かけ、他にもボランティアによる絵手紙や朗読、チェロやオカリナ演奏など楽しみな生活が支援されている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩や買物に職員と一緒に出かけたり、毎月モーニングや昼食を遠出ドライブして楽しんでいる。時には本人の希望に添い、担当者が家族と相談しながら個人対応することもある。また、2年毎に法人施設と合同で1泊旅行や日帰り旅行もある。体力や体調に配慮しながら、負担にならない範囲で希望に添う、ホームに閉じこもらない外出支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことを大切と認識しており、鍵をかけないことを当たり前としている。夜間のみは施錠するが、日中はすべての出入り口や部屋を開放している。夜間は薬品庫や包丁収納棚も安全のため鍵をかける。夜眠れない人には夜勤職員と一緒に寝て話すなどして対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは毎月火災や地震を想定して避難訓練を行っている。また、年2回消防署の指導のもと、火災を想定して避難訓練も実施する予定である。災害に備え水や食料、懐中電灯、おむつ、ポータブルトイレなども備蓄している。災害時における同法人の連携支援体制もある。地域の協力も呼びかけていきたいと考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士による献立をもとに入居者の病歴や体調に配慮して、希望や旬の食材を取り入れて柔軟に考えている。毎食の食事摂取量、水分摂取量を記録し、体重の変化を見て健康管理に繋げている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓は掃きだしになっていてすぐにベランダに出ることができ、明るく開放的である。庭にはプチトマトやシソなど季節の野菜を植え、収穫もする。花を植えに来訪する家族もある。畳のスペースがあり、入居者が横になったり洗濯物たたみをするなど有効に使われている。また、コタツを囲んで皆の談笑の場となっている。玄関にイスを並べて日向ぼっこすることもある。廊下は回り廊下になっている。照明は目にやさしい黄色の色調となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が使い慣れた家具が持ち込まれ、テレビやコタツも持ちこまれている。壁には家族や動物の写真、時計や人形、花や観葉植物などそれぞれのお気に入りのものが置かれ、その人らしさが現れており、心地よく過ごせるようになっている。地震対策は家族の負担にならないように配慮して検討しようとしている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。